

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600226		
法人名	社会福祉法人 歌垣福祉会		
事業所名	グループホーム うたがきの里		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字築切264番地1		
自己評価作成日	令和4年11月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年12月14日	外部評価確定日	令和5年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>田園に囲まれ、近くには小学校や保育園があり環境に恵まれ、散歩時には小学生が声をかけてくれたり、散歩中の園児が立ち寄り一緒に歌ったりしています。また、利用者様に楽しんでいただけるよう外食・買い物・ドライブ(令和4年度はコロナ禍の影響で中止)や季節行事には工夫を凝らしています。ウッドデッキでの外気浴や散歩による気分転換、レクリエーションや生活リハビリによる身体機能の維持にも努めています。晩秋になると佐賀の名物でもあるバルーンが上空まで飛んで来る事があり、利用者様、職員は歓喜して手を振る光景も見られます。ホームの菜園で採れた野菜を美味しく頂かれ喜んでいただきました。ゆっくりとした雰囲気の中で、笑いの絶えないホームです。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者との冗談も言い合うアットホームな事業所である。職員が共有している想いは、自分がしてほしい事をする、されて嫌な事はしないというシンプルな基本である。つい大きくなりがちな声や、中でも語気には常に注意を払っている。利用者の個性を見極め、それぞれの想いに寄り添うと掲げた介護理念は日々のケアにも窺える。また新鮮な地元食材を使った食事が提供されていることも特長である。非常時に駆け付けてくれる地域協力員の存在は、近所の商店や理髪店との長い付き合いからも分かるように、地域に根付き暮らしている証でもある。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に基本理念と各ユニット内の介護理念の唱和を行い実践している。しかし、中には新型コロナの影響で実施が困難なものもある。	開設時からの基本理念と、後に各ユニットで作上げた介護理念がこの事業所の原点である。目に付く場所に掲示され、毎朝の唱和や職員会議の中でも意識付けを図っている。「敬愛・信愛・友愛」の精神と、「出会い・ふれあい・語り合い」の心を謳い、各ユニットの介護理念では具体的な行動が示されている。日々の関わりの中で利用者のペースや状況に合わせたケア、また笑顔を向けながらゆっくり話す様子には理念が活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの流行により規制され、本来は近隣の保育園・小学校との交流を図り、避難訓練では地元消防団や地域協力員の参加を得て合同で行っていますが、現状として交流は出来ていない。地区のクリーンデイには職員が参加しています。又、食材については地域のお店の物を活用したり、散髪に関しては感染予防対策を十分に行いながら限定で地域の理髪店より来て頂いています。	自治会に加入しており、地域の細かい情報は回覧板や地元に住む職員からもたらされている。住民の清掃日には職員が参加し草刈り等に励んでいるが、近隣施設との交流やアニマルセラピー等のボランティア受け入れは規制せざるを得ない状況である。しかし、これまで培ってきた地域との繋がりはコロナ禍であっても揺らぐことはない。非常事態に駆け付けてくれる地域協力員がいたり、地元商店の利用、また見守りや連絡を頼める関係もそのままに、利用者が当たり前の暮らしを続けられるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、交流は出来ず活かせていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、2ヶ月毎の会議は中止しており、ホーム内での活動報告は資料配布を行っている。	コロナ禍であり、集合の会議は開けずにいる。写真を多く使った資料は利用者の日常が分かりやすく、現在は郵送や手渡しで届けている。運営推進会議を外部の人の目が入る貴重な機会と捉え、集合会議の再開が期待される。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に市町村担当者に参加してもらえる様をお願いしていますが、新型コロナウイルスの防止対策で開催出来ず、資料配布にて実情を伝えている。ただ、新型コロナウイルスワクチン接種等における相談連絡は電話にて行え、その他申請時に役場に行き担当者との意見交換をしています。	行政側に問い合わせ等があればまず電話を掛け、内容によっては直接出向いている。メールの活用もある。最近ではマイナンバーカード取得やコロナワクチン接種に関してアドバイスを受けたり、認知症カフェについても情報を得ている。行政側と協働関係を築き、実直に対応してもらえる関係は出来ている。また、通常であれば介護相談員の訪問もあるが、コロナ禍で規制中である。相談員が伝えてくれる他事業所の例などが参考になることもある。再開が期待される。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部での研修会の参加は新型コロナウイルス感染症予防の為に行えず、職員会議でのケア会議において身体拘束をしない話し合いを行っている。	入居契約時に指針の説明を行っており、職員は身体拘束の内容やその弊害まで理解している。やむを得ない場合の行動規制やセンサーマット等を使用する同意書もあるが、家族の承諾を理由に正当化するものではない。止めるための工夫や方法の話し合いもある。また職員には頃から人数を数える習慣があり、玄関等の施錠をせざるも安全で自由な暮らしの見守りが出来ている。仮に不適切なケアが見られた場合は、まず本人に理由を尋ね、ケースによっては全体の事として注意喚起することとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で研修会(実践者研修)参加者の報告や研修会を通して職員の意識付けを行いました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際、利用者の中に生活保護受給者の方がおられ、安心サポート利用されており、本人様と関係機関との話し合いを支援しています。しかし、職員に対する権利擁護に関する制度についての学びの機会はなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約や改定時は書面等にて十分説明し理解・納得を得られるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の中、家族様の面会も制限され家族様との接する機会少なくなっていますが、モニタリング時や電話等で機会を設けご意見・ご要望を伺い、また、利用者様においては日常の会話から得た情報をケース会議等で話し合い、サービス提供に反映させています。	面会規制中でもあり、家族と対面で会話ができる機会は少なくなった。事業所では前回の外部評価後にこの件を課題として挙げ、家族の要望や意見等を把握し運営に反映させると目標を立てている。そのための具体的な取り組みとしたアンケートによる調査は未だ実施されていないが、近況を伝える電話の際には要望等の聞き取りにも努めている。今回の当外部評価アンケートにあった要望には答えを出したのものもある。出された意見を前向きに活かした例であり、全ての家族へ周知・公表することも検討している。訪れる家族にも高齢化がみられ、健康面などに配慮した声掛けも行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時や職員会議、ケース会議、日常業務中においても意見や気づきをその場で出し合い、運営に反映するように努めています。	毎月の職員会議は概ね60分、2ユニット合同である。これには休みの職員も参加し、終了後には続いて各ユニットでのケース会議もある。限られた時間の中に勉強会も組み込まれ、4つある各委員会からや、利用者毎のカンファレンスでも意見が交わされている。寒くなると流行るウイルス感染症の予防については最近の会議で取り上げており、自由に発言しやすい環境である。また管理者としては働きやすい職場となるよう配慮も必要で、日頃から職員とのコミュニケーションは大切にしている。家族の状況まで把握し、声を掛けることもある。定時での帰宅を促し、休暇取得には出来るだけ応えている。現場の声に耳を傾け、主任者会議に於いて法人の上席へと繋いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のチャレンジシートにより各自の目標設定を行い、目標達成度並びに自己評価に対して評価を行っています。労務規定により随時、労働環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として職員の資質向上について事業計画に掲げており、施設内外の研修への参加や資格取得の推進を行い特別休暇扱いなどで取りやすい機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響を受け、グループホームによる地域連携協議会主催の研修会や町内の医療福祉連携研修などの参加が出来ず、交流を通じたサービスの質の向上は未達成でした。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネジャーや家族様に聞き取り調査し、利用者様本人、困っていること、不安なこと、要望等に出来るだけ添えるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学をして頂き、家族様の思いや要望を聞き取り、会話をしながら信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャーや関連する事業所からの情報をベースに本人様や家族様の要望に応えられる支援を見つけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る部分の発掘をし、日常生活の中で職員と共に取り組む事の機会を作り、良好な関係が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中、家族様の面会にも制限を設け、外出に関しては原則病院受診以外は中止としている状況であるが、不穏時どうしても職員では対応出来ない場合、電話による協力やリモート面会等で協力して頂き、本人様と家族様の絆を大事にして共に支え合う関係に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍の中、外出規制もあり、なかなか馴染みの場所への支援は難しくなっていますが、リモート面会や手紙、プレゼントといった形で馴染みの人との関係の継続を絶たないように支援に努めています。	入居にあたり本人や家族、担当のケアマネジャーから話を聞き、人間関係等の把握に努めている。場合によっては利用していたサービス事業所から情報を集めることもある。それらを基に具体的な支援が組まれ、通常であれば盆正月の帰宅や墓参り、法事への出席など、また隣接してデイサービス施設があるため旧知の友人との面会もみられた。しかしコロナ禍ではその殆どが自粛を余儀なくされている。事業所では利用者の日常が掲載されたホーム便りを届けたり、馴染みの美容院へ通う方もいる。電話の取次ぎはいつでも可能で、これまでの関係が途切れないう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの過ごされ方を把握し、利用者様同士が良好な関係で過ごせるようにホールの席を工夫し、時には職員が中に入り孤立を防ぎ、レクリエーションや行事といったものを通じて支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了された方の関わりは特に相談や支援といった形はなく、近況報告や挨拶する程度で終わっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の意向に沿うように日々の関わりの中で、さり気ない会話や仕草から把握し、また、困難な場合は家族や職員で検討し利用者様本位の支援に努めています。	日々のケアの中で、一対一で話し相手をしていいる時に利用者の想いが聞けることがある。食事中に隣に座っている時や、入浴中の寛いだひとときがそれである。発語の少ない利用者とはスキンシップや選択肢を示す話し方を心掛けている。利用者の中にはお気に入りの職員を待つ方もいて、聞き取った事は口頭やノート類に記し共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の家族様からの聞き取りや担当ケアマネジャーや他事業所から情報把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの残存機能、体調に合わせ無理なく過ごせるサービスの提供についてケース会議、モニタリング時に話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態、状況を把握し本人に合ったケアについて家族様に面会時やモニタリング時に意向を伺っている。また職員間でケアを検討し利用者様にとってより良い介護計画の作成に努めている。	ケアプランは入居当初は3ヶ月毎、その後は6ヶ月毎に見直し、その間に変化があれば臨機応変な対応である。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等はコロナ禍では電話での会話から汲み取っている。家族からは健康や安全、寂しくないように等が寄せられており、ケアプランは分かりやすく説明をされ、一緒に話し合っている。また歳を重ねる毎に体力の低下は否めないが、職員のケアの積み重ねが残存能力の維持に繋がっている事も窺える。プランの実施状況は日々のチェックで確認され、モニタリングは毎月のケース会議で全員が関わっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録等により情報共有を行い実践に努め、気づき、見直し等ある場合は話し合い介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の状況、状態の変化に応じて必要な支援やサービスの提供に心掛け取り組んでいる。コロナ禍において特に家族様との機会が少なくなっている為、家族様には広報誌を送り又、家族様からの電話での会話を楽しまれる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスまん延防止の為、面会・外出に関して制限しておりボランティアの受け入れや近隣学校との交流出来ず地域資源との協働は不十分である。しかし、中学生からのハガキを受け取った際には、お礼に雑巾を作成して送るなどしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との受診継続の為、家族様付き添いで受診されており、近隣医院において定期的な診療に関しては訪問診療を受けられ、緊急受診・検査受診等の時は職員同行で受診を行い、家族様に受診・検査結果等を報告している。	利用者は昔からの馴染みの医師をかかりつけとしているため5箇所の病院・医院(3箇所は訪問診療あり)となる。利用者にとっては病歴等も知ってもらえている安心感がある。協力医への変更を勧めることもない。受診に家族が付き添う場合は日常のバイタル等を持参してもらいスムーズな診療へ繋げている。また口腔ケアの重要性にも敏感で歯科医の訪問診療もある。日頃から家族にはこまめな連絡をしており、家族の安心につながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調変化の気づきを相談でき、急変時の助言や医療的支援があります。また、病院看護師との連携を取りながら適切な受診に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換や入院中の状態把握についてコロナ禍対応の中、病院関係者との情報交換を行い退院後の支援に役立てています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関しては契約時に説明を行い、ホームでの対応困難時は家族様に伝えて状態に応じて職員、家族様主治医を交えて話し合いを行っている。	入居契約時に指針の説明を行っている。事業所のケアで出来る事と出来ない事を伝えながら、安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。容態の変化に伴い話し合いは何度でも重ねる事とし、かかりつけ医の同席もある。これまでに看取りの経験はないが、今後の課題として事業所の体制や職員のフォローなどを挙げ、時間を掛けて慎重に検討したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に対して急変や事故発生時における対応についてマニュアルを通して共有するようにしており、又、コロナ禍の中オンライン講習会に参加し伝達を行っていますが、定期的な応急手当や初期対応の訓練できておらず、実践に向けての研修・勉強会が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に向けてのマニュアル作成、避難訓練を計画に挙げて実行していますが、コロナ禍の影響にて地元消防団や消防署、近隣協力員との合同訓練は中止している状況です。また、夜間訓練についても日中に夜間想定した訓練に留まっています。	年2回の訓練は昼間帯に行い、夜間は想定のみである。想定時には夜勤者とみなした職員のみで初期対応を試みている。居室のドアを塞ぐような家具の配置はなく、利用者も一緒に避難を体験している。職員は通報装置や消火器の使い方も承知している。居室の入口に掛けた札は外部の応援者に介助の度合いを知らせ、裏に返して退避済みの合図としている。一斉連絡網には4名の地域協力員も登録されており、緊急時には心強い応援である。非常食や水の備蓄に加え、スプリンクラーが作動すれば濡れることを踏まえて寒さを凌げる物の検討も行っている。訓練での反省や課題はその日の講評の他、職員会議でも周知され記録はそこに残される。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼時に唱和している基本理念の三愛に基づき人権を尊重し誇りやプライバシーに配慮した声掛けに努めています。ただ、突発的な行動等に対して気配りにかける声掛けや対応が見られる事もあり反省する点が見られます。	トイレや入浴の介助では羞恥心など最も配慮を要する場面である。ドアはきちんと閉める、周囲に見えにくい立ち位置、また中に入る時は声を掛けてから等々を当たり前の事として支援している。入居して間もない時期は同性によるケアを心掛けているが、本人や家族の意向に沿っている。個人情報の取り扱いに関しても職員の意識は高く、業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払っている。ホーム便り掲載や居室の名札等も同様で入居時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との関わりの中で思いや希望などを聞き出せるよう声掛けや支援を行い自己決定出来る様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人に合ったペースで支援に心掛けており、レクリエーション活動等のお誘いや起床のタイミングも無理せず、出来るだけその人に合った支援の提供を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望や家族様の用意された衣類等を着て頂き、整髪についても家族様の支援により美容室に行かれる方もおられます。又、定期的な訪問散髪を利用され自分の好みにカットされる方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時に調理の下ごしらえやつぎ分け等のお手伝いをして頂き、献立の説明や食べやすい食事形態の工夫を行い、又、季節感のあるメニュー作りの為その時節の果物を取り入れ楽しさを持てるようにしています。他、職員も一緒に同席し家庭的な雰囲気づくりを行っています。	献立は栄養士資格を持つ職員が、利用者に食べたい物を尋ねながら作っている。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な献立には見た目や形を変えた提供で対応している。歳を重ねる毎に利用者の関わりも難しくなるが、出来る事を手伝ってもらいながら食事の時間を大切にしている。軽い食器や持ちやすいように短くした箸、また声を掛けながら促す様子には介助を最小限にし、出来るだけ自分で口へ運んでほしいという想いが窺える。職員は同じテーブルで、同じものを食べながら話し掛け、和やかな食事風景である。誕生日は当日には難しいが、食べたいものを選んでもらったり、ケーキを用意し、皆で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせて食事量や形態を考慮して提供しています。水分も好みの飲み物で水分補給回数が増えるよう工夫して水分不足にならない様に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、出来ない方の介助を行っています。特に義歯装着される方の義歯洗浄は細目に行い、又、義歯消毒については訪問歯科の先生の助言により毎食後にポリデントを使用し実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握し早めの誘導にて汚染回数の減に努めています。又、さりげない声掛けにて排泄チェックを行い、必要時には清拭対応しています。	排泄に関して全体の3分の1は自立しているが、任せたままでなく、さりげない見守りを行っている。日中はトイレでの排泄を主とし、トイレ設備がある2つの居室利用者は自室を利用している。日々の排泄記録から誘導のタイミングを図り、布パンツにパットで過ごせるようになった例もある。またオムツ・パット類の使用枚数減は自己負担の軽減にも繋がり、入居後のケアによる改善例である。トイレ内には手すりが設置され、転倒防止や自立への補助具となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し水分補給や乳製品、繊維質の多い食事の提供、歩行運動、腹部マッサージ施工など便秘予防に努め、長時間続く場合は主治医への相談を行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は基本的には週3回となっておりますが、体調や希望によっては隣ユニットでの入浴は可能である。時間帯は午前午後と利用者様に合わせて対応しています。夜間の使用については勤務体制上困難である。又、特に順番等は決めず、本人様の状態・希望に合わせて対応しています。	2つのユニットが交互に入浴日となる。事業所全体で見れば風呂の準備は毎日出来ており、希望があれば続けての入浴も可能である。拒む方には無理強いせず清拭やシャワーで対応するが、長く続けば職員のテクニックを活かし誘導している。ひとりずつ、ゆっくりと寛いでもらう中で想いを話してくれることもある。シャンプー類は事業所が用意しているが、好みの物を使っている方もある。浴室・脱衣場共に暖房設備があることで冬場のヒートショックを予防し、また脱衣場内のトイレ設備は入浴前後に使い勝手が良い。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守りの支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や寝具調整に気を配り安心して休んで頂けるように支援しています。不穏になられる方には傾聴し入眠出来る様に利用者の状態を観察し状況に応じて休息して頂くように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情により副作用を把握し症状には注意して医師へ報告しています。また、職員間での情報共有のため報連相ノートを活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ等、行う役割がある事が自信への繋がり、職員と一緒に出来る事で気分転換の支援をしている。本来であればドライブ・買い物等の外出支援を通して気分転換に繋げるが、コロナ禍の中外出支援が中止となっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防対策として外出支援は見合わせており支援出来ず。玄関先やウッドデッキでの外気浴やホーム近辺への散歩、車中ドライブを行いました。	コロナ禍前は家族と外食に出掛けたり、食材の買物に同行する日常があった。現在は自粛中である。自己評価に記してある通り、近場で降りないドライブに出掛け、みんなが楽しめるように数回に分けて出掛けている。天気が良ければ周辺を散歩してみたり、玄関先でのひなたぼっこだけでも気分転換や五感の刺激になり、利用者の表情が明るくなるを感じている。車椅子利用であってもドライブや散歩は同様で、殆ど外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして家族より担当職員が預かり、日用品の購入や医療費の支払いに当てています。本来希望があれば職員が同行し買い物に行くこともありますが、コロナ禍の為その買い物に行くことは現時点では控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者、家族様の要望があれば電話を掛けたり、手紙やプレゼントを渡したりその都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に作成した季節に応じた作品などを掲示している。テーブルや洗面台には職員が持参した花や庭花を飾り利用者様が居心地良く過ごせるよう工夫しています。また、ホーム内はコロナを含め感染症予防の為、空気の入替え(換気)を行うと同時に空気清浄機設置を行っている。	リビングには大きな紅葉の絵が飾られている。みんなで葉っぱの一枚一枚を貼った作品で、季節を感じてもらえるように工夫が窺える。利用者の動線上に行動を妨げる物はない。夏の西日はレースカーテンやよらずで和らげ、日中の殆どをリビングで過ごす利用者には騒音もない静かな環境である。時節柄、換気を心掛け、窓の開放や常時少し開けておく場所もある。手を触れる箇所の消毒はこまめに行い、居室も同様に配慮している。浴室、トイレ共にきれいに掃除され、嫌な臭気はない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで自由にソファや椅子に腰かけて頂き、利用者様が気の合う方と会話出来るように声掛けや席の移動をお願いしたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた物や家族の写真など持参して頂き飾ったり、自分で作成された作品など置かれ、中には仏壇を持参されている方もおられ、自宅におられるような雰囲気作りに努めています。	火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はない。使い慣れた物と伝えている。家具の配置や飾り付けは本人と話し合いながら行い、居心地よく過ごしてもらえよう支援している。各居室にはクローゼットもあり、収納や整理整頓に役立っている。天気の良い日には寝具を干す手間も惜しまない。自宅と同じである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや廊下には障害物は置かず、見守りながら自由に行動できるように環境整備し、居室の入り口やホールの自席や椅子に名前を分かり易くしています。又、トイレには直ぐに分かるように貼紙をし、使い方なども中の方に掲示しています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない